

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	北区
学 校 名	中津小学校
学校長名	山口 祐子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・中津学校では、第6学年 49名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語においては、平均正答率が71%と全国・大阪市平均を3.8～4ポイント上回った。平均無答率は1.6%で、全国・大阪市の平均を1.9～3.2ポイント下回った。領域別の正答率では、「書くこと」で全国・大阪市平均を9.9～14.2ポイント下回る結果となったが、それ以外の領域では全国・大阪市平均を上回る正答率であった。

算数においては、平均正答率が66%で全国・大阪市平均を3.5～4ポイント上回った。平均無答率は2.7%で全国・大阪市の平均を0.4～0.7ポイント下回っている。領域別の正答率では、すべての領域で全国・大阪市の平均を上回っている。特に、「数と計算」「データの活用」の2領域での平均正答率が全国・大阪市を5～7ポイント程度上回った。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

領域別にみると、ほとんどの領域で全国・大阪市平均を上回る正答率であったが、「書くこと」では大幅に下回った。図形やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題に課題が見られた。他の領域の正答率からは知識・技能の面については身につけているといえる。根拠を明確にしながら自分の立場や意見を表していく学習に取り組んでいく必要がある。

〔算数〕

領域別にみると、すべての領域で全国・大阪市平均を上回る正答率であった。他の領域が全国・大阪市平均を3～7ポイント程度上回っている中、「図形」領域は0.2～1.2ポイントの差であった。特に、三角形の底辺と高さの情報をもとに面積の大小を判断し、その理由を言葉や数字を用いて記述していく問題において、全国・大阪市平均より8ポイント以上下回っていた。根拠を明確にしながら、言葉や数字で表していく学習に取り組む必要がある。

質問紙調査より

家庭での基本的な生活習慣（朝食や起床就寝時刻）に関する質問に対して肯定的な回答をした児童の割合が大阪市・全国平均と同程度か上回っている。基本的な生活習慣の確立は家庭の協力が不可欠であり、これまで懇談会、「学校だより」「保健だより」「校長室だより」等で伝え続けてきた成果である。

「将来の夢や目標を持っている」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」に当てはまると回答した児童の割合が大阪市・全国平均よりも高い。しかし、「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」に肯定的回答をした児童は大阪市・全国平均よりも低い。さらに、学級活動や児童会活動などを通して、自己肯定感が高まるような活動や主体性を高める指導を行わなければならない。

今後の取組(アクションプラン)

結果から、どの教科も基礎基本の学習内容や考え方は定着しているが、主体的に課題について考え、言葉や文字・図形・グラフなどを用いながら、自分の考えや意見を明確にしながら表現していくことに課題があることがわかった。

国語科の授業では、文章の構成を捉えることや、自分の考えが伝わるように文章構成を意識しながら書く活動を取り入れていく。算数科では、計算に関して成り立つ性質を活用したり、式の意味を算数の用語を用いて表現したり、自分の考えや判断の根拠を言葉や数字を使って筋道立てて記述したりする学習を積み重ねていく。

そして、「習熟度別少人数学習」や「学びサポーター」を有効に機能させ、個に応じた指導を進めていくことで学力の向上を図る。また、教科の授業の中で一人一台端末を効果的に使って、主体的・対話的に「調べる・まとめる・伝える」学習の取り組みを進める。一人一枚のホワイトボードを活用した学び合いやデジタルドリルでの個に応じた学習など、個別の学習ツールを活用した学習にも積極的に取り組んでいく。

【 全体の概要 】

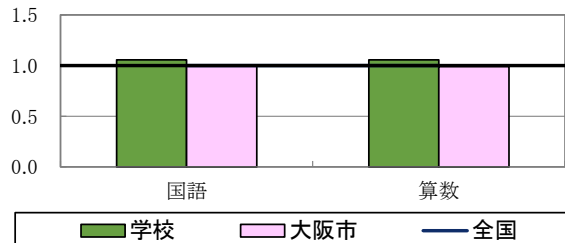
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	71	66
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

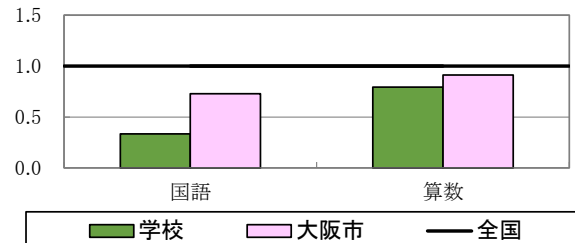
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	1.6	2.7
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



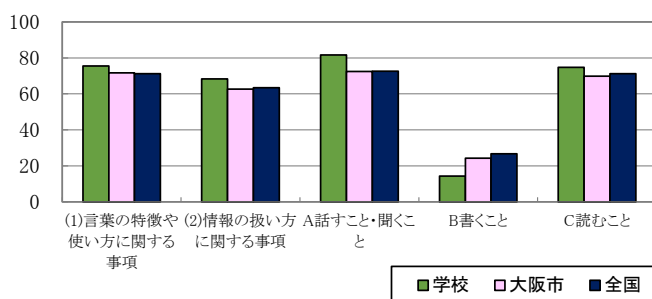
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	5	75.5	71.7	71.2
(2)情報の扱い方 に関する事項	2	68.4	62.6	63.4
(3)我が国の言語 文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	81.6	72.4	72.6
B 書くこと	1	14.3	24.2	26.7
C 読むこと	3	74.8	69.9	71.2

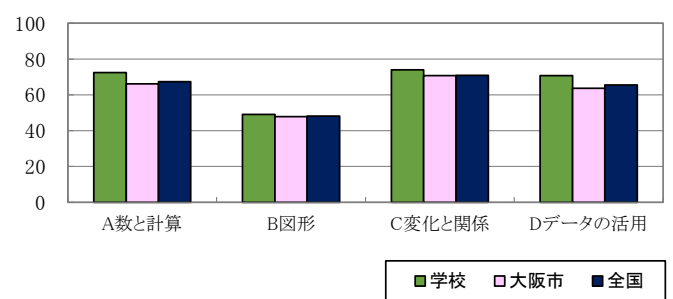
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	72.4	66.1	67.3
B 図形	4	49.0	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	74.0	70.8	70.9
D データの活用	3	70.7	63.6	65.5

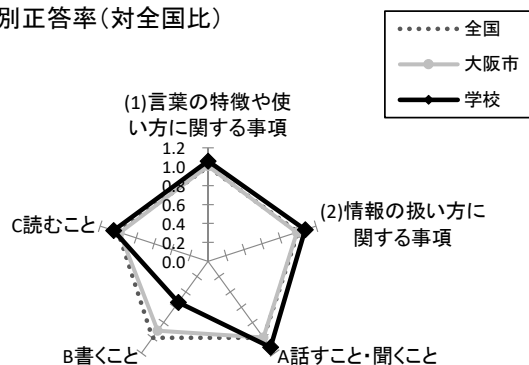
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



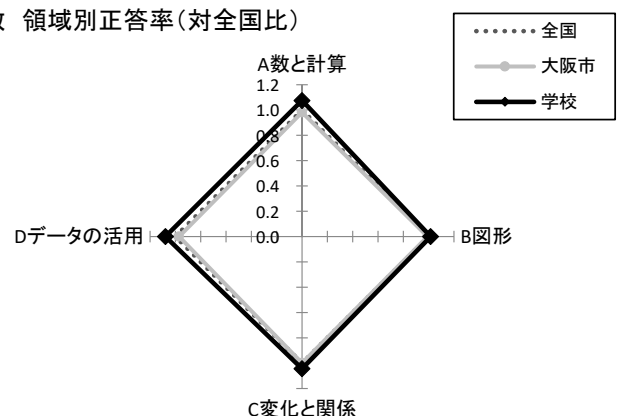
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)



児童質問紙より

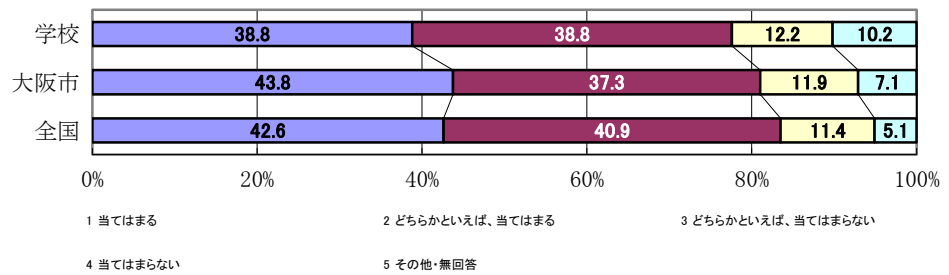
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

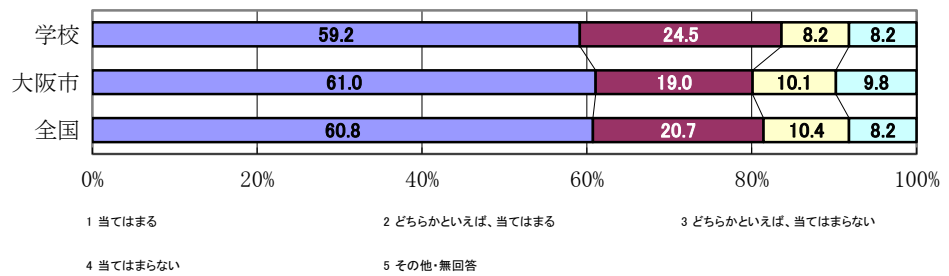
4

自分には、よいところがあると思う



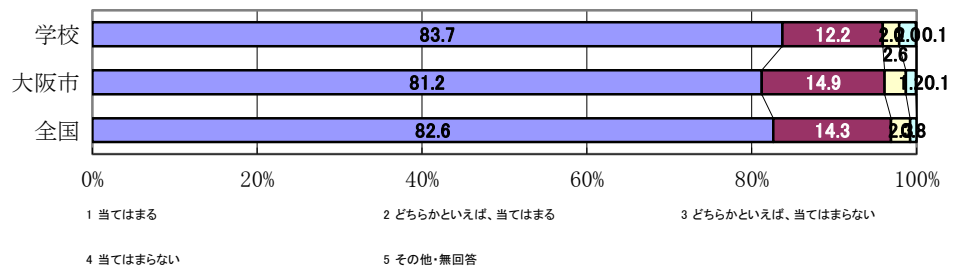
7

将来の夢や目標を持っている



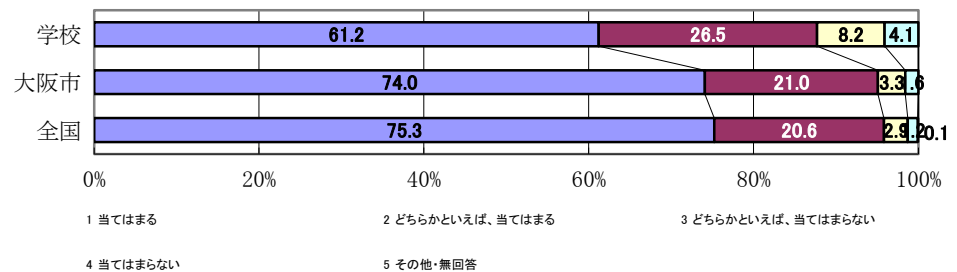
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



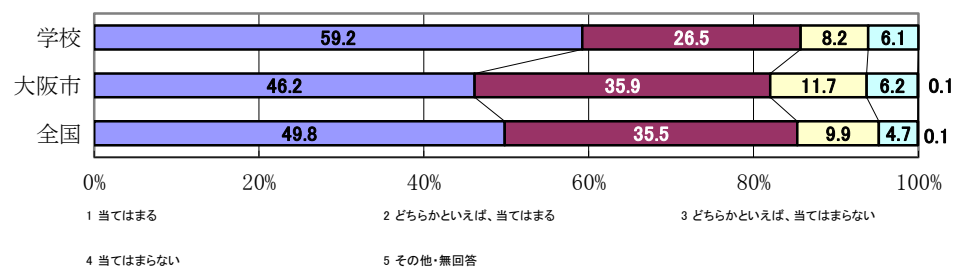
11

人の役に立つ人間になりたいと思う



12

学校に行くのは楽しいと思う



学校質問紙より

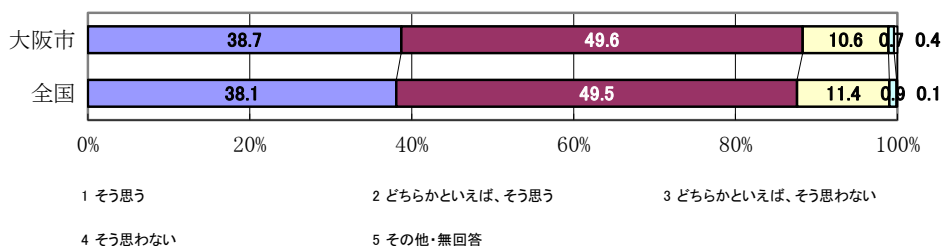
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号
質問事項

9

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている

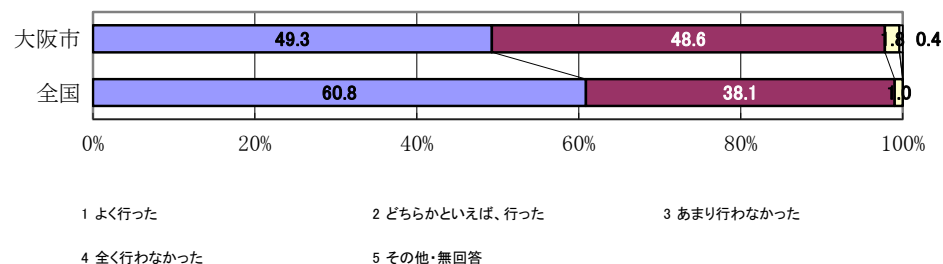
学校「**「そう思う」**を選択



13

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

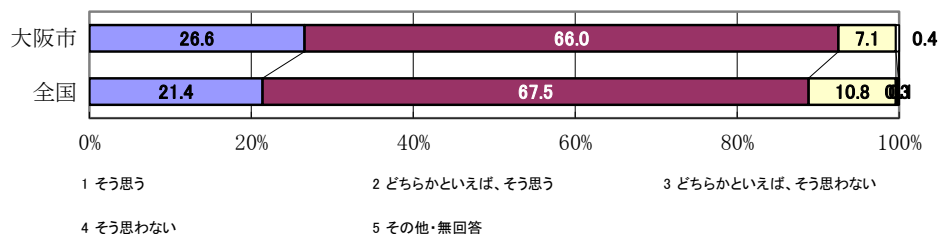
学校「**「よく行った」**を選択



26

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている

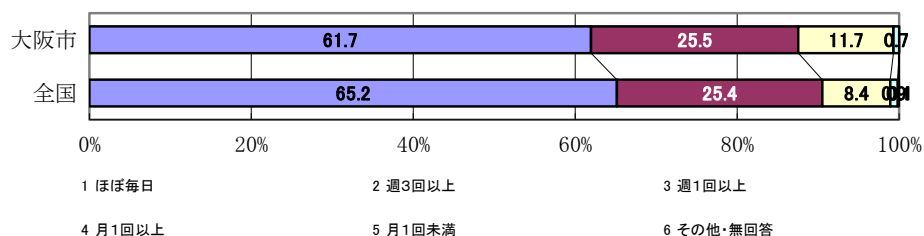
学校「**「どちらかといえば、そう思わない」**を選択



55

調査対象である第6学年の児童に対する、前年度までのICT機器の活用状況として、あなたの学校では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校「**「ほぼ毎日」**を選択



72

保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか

学校「**「よく参加している」**を選択

